

【アラビア語】

アラビア語選択案内

「アラビア語」と聞いて、皆さんは何を連想されるでしょうか？

「アラジンと魔法のランプ」などの『アラビアンナイト』の物語を思い出される方、高校世界史で、アラビア語由来の単語（コーヒー・アルカリ）を習ったことを思い出される方、あるいは、中東地域の事件を伝えるニュースの画面で、アラビア語の紐のような文字を見た、という方もいらっしゃるでしょう。

断片的なイメージは色々と浮かぶけれど、正確に説明することはできない、という方が多いかもしれません。日本から遠い地域の言語であり、日本での学習者も、英語や中国語などに比べて格段に少ないのが現状です。

しかしながら、アラビア語は、知れば知るほど惹きつけられる、深い魅力をたたえた言語であり、大学時代にこれを学べることは、きっと皆さんの人生にとって大きな意味をもつであろうと思います。

話者数の多い言語

実はアラビア語はネイティブ・スピーカーの多い言語です。アラブ連盟加盟国を中心とする中東・アフリカの 25 カ国で公用語となっています¹。正確な話者数のデータはないのですが、現在ではおよそ 3 億人前後、全世界の話者数ランキングで 5 位以内に入る言語とされています。1973 年には**国連公用語**として認定されました。

『クルアーン』（コーラン）の言語

アラビア語は、もともとアラビア半島の人々が使用していた言語です。言語学的には、アフロ・アジア（セム・ハム）語族のセム系言語の一つで、ヘブライ語などと親戚の関係にあるとされています。7 世紀にアラビア半島で**イスラーム**が誕生すると、その聖典『クルアーン』の言語として、近隣の地方に拡大していきました。今では、先ほど述べたように、中東・北アフリカを中心とする広大な地域の人々が母語として使用しています。

それだけではありません。イスラームという宗教において、アラビア語は「聖典の言語」として特別な位置を占めていますので、アラビア語ネイティブでなくとも、イスラーム教徒（ムスリム）であればアラビア語に触れている、ということになります。例えば南アジアや東南アジアのムスリムで、アラビア語を学習している人はたくさんいます。「**アッサラーム・アライクム**（あなた方の上に平安あれ）」というアラビア語の挨拶は、非アラビア語圏でもよく使われます。

現在世界で 16 億人とも 18 億人とも言われるムスリムですが、その数は今後さらに増加していくと

¹ アラビア語を公用語としている国は以下の通りです。シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、イラク、サウジアラビア、クウェート、イエメン、オマーン、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦、エジプト、チュニジア、スーダン、リビア、アルジェリア、モロッコ、モーリタニア、ソマリア、ジブチ、チャド、コモロ、エリトリア（主要言語）、パレスチナ（自治政府）。

見られています。それにともない、アラビア語の重要性も減ることはないでしょう。アラビア語を学ぶということは、世界の様々な地域の人々と意思疎通をはかる切符を手に入れる、ということなのです。

アラビア文字の美しさ

先ほど「紐のような文字」と書きましたが、アラビア文字を見たことのある方は、「このようにやうにゃした絵のようなものが果たして本当に文字なのだろうか？」と不思議に思われたことでしょう。そのような方は、初級の授業で **28 文字**（そう、アラビア文字は基本の文字は 28 文字しかありません）を学び、それを文字として認識できた瞬間、深い感動に包まれることでしょう。

アラビア文字は**右から左**に書きます。原則として**文字と文字をつなげて書く**という、英語の筆記体のような特徴があります。まずは文字を覚え、自分の名前が書けるようになるとういすね。

実はアラビア文字には「書道」もあります。イスラーム世界で、聖典『クルアーン』の章句を美しく書きたいという願いから発展したものです。「文字そのものの美しさ」を究極の形でつきつめており、きわめて芸術性が高く、モスク（イスラームの寺院）の壁などが書道で装飾されているのを見ると、その素晴らしさに心が奪われます。「**アラビア書道**」というキーワードでネットを検索すると、色々な画像が出てきますので、ぜひ見てみてください。

書き言葉と話し言葉

さて、ここからいよいよ学習に関する話をしたいと思います。アラビア語の大きな特徴として、「**二重言語性**」、すなわち、書き言葉と話し言葉が大きく異なる、ということがあります。書き言葉を「**正則アラビア語**（フスハー）」、話し言葉を「**口語**（アーンミーヤ）」と言います。

正則アラビア語は、『クルアーン』の言語が元になって整備されたもので、書籍や新聞・雑誌、論文など、書きものに使用される言語です。話し言葉として使われる場合は、演説やテレビ・ラジオの報道、宗教や政治などがテーマの議論、歴史大河ドラマなど、堅い場面が主となります。

それに対し、口語は人々が日常的に会話で使うもので、エジプト方言・シリア方言など、地域によって単語も発音も大きく異なります。口語は、小説や一部の例外を除き、書き言葉として使われることはありません。

学習者は、まずは書き言葉である正則アラビア語を学ぶことになります。先ほど述べた 28 文字（+いくつか）をマスターし、名詞・形容詞から動詞へと文法の学習を進めていくのがスタンダードな方法です。

難解な言語

アラビア語は学習容易な言語ではありません。ノン・ネイティブにとっては文法習得の険しい道のりが続くと言えるでしょう。しかし、いったん言語の基本がつかめてしまえば、あとはパズルを解いていくようなスリルと楽しさを味わっていくのです。

アラビア語で大切なのは「**動詞**」です。例外はありますが、動詞は原則として 3 文字の子音の組み合わせから出来ています。

例えば「K-T-B」という 3 文字、これに「ア」の母音を付して「KATABA」と読むと「彼は読んだ」という動詞になります。これが動詞の「**原形**」です。原形が「彼（3 人称単数）」であること、そして

過去形（完了形）であることが特徴です。

この3文字の組み合わせから、数多くの言葉が生み出されていくのです。動詞でしたら、1人称や2人称のそれぞれの形や現在形(未完了形)が、そして、「書く」という意味から発展して「本(KITAABU)」
「作家(KAATIBU)」といった名詞も生み出されます。まるで一本の木の幹から、様々な方向へぐんぐんと枝が伸び、次々に葉が出てくるようなイメージです。基本となる原則3文字の組み合わせを「**語根**」といいます。「語根」から言葉が「派生する」、このような**日本語にない言語の仕組み**を知ることは、皆さんに知的な刺激を大いに与えるのではないのでしょうか。

学習の際、文法的には最初に名詞・形容詞から入りますので、動詞の学習が始まる前に挫折してしまう人もいますが、それはとても勿体ないことです。「**アラビア語の面白さは動詞を習ってから**」と思い、学習を続けてくださるようお願いしています。

公正な視点

苦勞をして何故難解なアラビア語を学ぶのか、と思われる方もいらっしゃるでしょう。先ほど述べた、世界の多くの人々とコミュニケーションをはかれること、日本語にはないロジックにふれられる新鮮さの他に、「**世界に対する多角的、かつ公正な視点をもつ**」ということがあげられると思います。

アラビア語が使用されているアラブ世界は、今日、世界情勢の震源地の一つとなっています。皆さんがアラブ世界関連のニュースに接する機会も増えてきているでしょう。しかしながら、それらのニュースは多くが英語や日本語を介したものであり、必然的に他言語のバイアスがかかったものです。これに対して、アラビア語学習者は、現地の人々の言葉をダイレクトに知ることで、より正確な判断材料を入手できるのです。

また、おそらく皆さんが目にする近年のアラブ世界関連のニュースは、戦争やテロ事件、あるいは反政府デモを伝えるものが圧倒的に多いでしょう。それによって、アラブ世界やムスリムに対し、危険・野蛮といったイメージを持つ方もいると思います。しかし、もちろんアラブ世界にも、一般の市民の生活があり、豊かな文化や芸術があります。ニュースでは伝えられない彼らの素顔に触れ、**世界の複雑さを知ることができるのも、アラビア語学習の醍醐味ではないか**と思います。

多くの方が希望をもって、アラビア語の世界へと冒険の旅に乗り出してくださるよう、願ってやみません。